

児童の実態 NRTの全国平均との比較

〔国語〕

- 低・中・校学年にわたり「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域が低い。
- 中年生の「書くこと」の領域が高い。

〔算数〕

- 全体として「数と計算」、手学年の「図形」が低い。

教育目標

考えを深める子
よさを認め合う子
心と体をきたえる子

めざす教師像

- 使命感と誇りを持ち、子どもと向き合う教師
- 日々の授業を大切に、子どもの心に灯をともし教師
- 心身ともに健康で感性豊かな教師
- 互いに磨き合い高め合う教師
- 業務改善に取り組む教師

体験・経験を活かし、自分の考えを持ち、
話し合う子どもの育成

基礎基本となる学習内容
の確実な定着を図り、思考
力や解決力の育成

児童が主体的に学ぶ時と
場の設定

授業の工夫・改善

- 単元全体の指導計画の見直し
- 学ぶ「意味と意欲」を持たせるめあて
- 個別最適な学び
- 書く目的や内容・方法を明確にした指導
- 学習内容が確認できる・次時につながるまとめ
- 自ら考える時間を設定し、協働的かつ探求的学習の展開
- 各種調査の分析、エビデンスに基づいた指導
- 学習の跡が分かり、自分なりの創意工夫ができるノート指導

◇ 基礎・基本の定着

- 授業スタンダードの意図的活用
- 授業のねらいの明確化と習熟時間の確保
- 家庭学習スタンダードの活用啓発

◇ 思考力・解決力の育成

- 体験・経験を思考の段階での活用
- 情報収集・取捨選択の機会の設定
- 見通しが持てる課題設定

◇ 主体的な学びの時と場

- めあてづくりの工夫
- 一人一台の端末を活用し、児童相互に考えをリアルタイムで共有する双方向での意見の交流の活性化
- 効果的なノートの取り方の指導
- 外部講師の有効活用
- 学校図書館の活用推進（読書ファイル・カードの活用）

◇ 指導体制の工夫

- 授業スタンダード2.0・ABCシートの活用
 - ・ポイントを絞っての取り組み
 - ・PDCAを実践し、授業力、指導力の向上を図る
- 国語タイム・算数タイムの計画的な実施
- 少人数指導・理科専科指導の推進（5・6年）
- 児童の特性や学習進度に応じた指導方法や教材等の設定（指導の個別化）
- 児童の興味関心に応じた学習活動や学習課題を提供（学習の個性化）
- 特別支援教育の考え方に立った指導計画
- 日常的な授業参観と指導助言
- 学校教師自身の強み・弱みを把握し、指導・授業・研修に活用

◇ 家庭との連携

- 家庭学習スタンダードの有効活用
 - ・自己マネジメント力の育成
 - ・自己課題型
- 発展・応用型
- 家庭との課題の共有・共通理解
- 自主的な家庭学習の習慣化
- 読書の推進
- 家庭学習と学習の習慣化の理解と協力
- 目的意識を持たせる家庭学習
- 週末ノー宿題デーの実施（）

◇ 校内研修の充実

- めあてとまとめの融合性
- 計画的な板書（学習内容と考えの掲示）
- タブレット端末の授業での活用方法の習得（プログラミング教育と思考の充実）
- 日常的に自分なりの考えを持ち、表現できる時間と場の設定
- 中学校区の小中連携
- 電子黒板・デジタル教科書の有効活用
- 各教職員が目的意識を持ち、研修履歴を活用した授業力・指導力の向上を図る。
- 小教研公開協力へ向けた実践的研究（家庭科）の推進

児童の実態 N R Tの全国平均との比較

〔国語〕

- 2年生の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域が低い。
- 4年生の「書くこと」「読むこと」の領域が高い。

〔算数〕

- 2年生の全領域、6年生「データの活用」が低い。

教育目標

考えを深める子
よさを認め合う子
心と体をきたえる子

めざす教師像

- 使命感と誇りを持ち、子どもと向き合う教師
- 日々の授業を大切に、子どもの心に灯をともし教師
- 心身ともに健康で感性豊かな教師
- 互いに磨き合い高め合う教師
- 業務改善に取り組む教師

体験・経験を活かし、自分の考えを持ち、
話し合う子どもの育成

基礎基本となる学習内容
の確実な定着を図り、思考
力や解決力の育成

児童が主体的に学ぶ時と
場の設定

授業の工夫・改善

- 単元全体の指導計画の見直し
- 学ぶ「意味と意欲」を持たせるめあて
- 個別最適化な学び
- 書く目的や内容・方法を明確にした指導
- 学習内容が確認できる・次時につながるまとめ
- 自ら考える時間を設定し、協働的かつ探求的学習の展開
- 各種調査の分析、エビデンスに基づいた指導
- 学習の跡が分かり、自分なりの創意工夫ができるノート指導

◇ 基礎・基本の定着

- 授業スタンダードの意図的活用
- 授業のわらいの明確化と習熟時間の確保
- 家庭学習スタンダードの活用啓発

◇ 思考力・解決力の育成

- 体験・経験を思考の段階での活用
- 情報収集・取捨選択の機会の設定
- 見通しが持てる課題設定

◇ 主体的な学びの時と場

- めあてづくりの工夫
- 一人一台の端末を活用し、児童相互に考えをリアルタイムで共有する双方向での意見の交流の活性化
- 効果的なノートの取り方の指導
- 外部講師の有効活用
- 学校図書館の活用推進（読書ファイル・カードの活用）

◇ 指導体制の工夫

- 授業スタンダード・ABCシートの活用
- ・ ポイントを絞っての取り組み
- ・ PDCAを実践し、授業力、指導力の向上を図る
- 国語タイム・算数タイムの計画的な実施
- 少人数指導・理科専科指導の推進
- ・ 児童の特性や学習進度に応じた指導方法や教材等の設定（指導の個別化）
- ・ 児童の興味関心に応じた学習活動や学習課題を提供（学習の個性化）
- 特別支援教育の考え方に立った指導計画
- 日常的な授業参観と指導助言
- 学校教師自身の強み・弱みを把握し、指導・授業・研修に活用

◇ 家庭との連携

- 家庭学習スタンダードの有効活用
- ・ 自己マネジメント力の育成
- ・ 復習定着型
- ・ 発展・応用型
- ・ 予習型
- ・ 自己課題型
- 家庭との課題の共有・共通理解
- 自主的な家庭学習の習慣化
- メディアコントロールデーの設定と実施
- 読書の推進
- 家庭学習と学習の習慣化の理解と協力
- 目的意識を持たせる家庭学習

◇ 校内研修の充実

- めあてとまとめの融合性
- 計画的な板書（学習内容と考えの掲示）
- タブレット端末の授業での活用方法の習得（プログラミング教育と思考の充実）
- 日常的に自分なりの考えを持ち、表現できる時間と場の設定
- 中学校区の小中連携
- 電子黒板・デジタル教科書の有効活用
- 各教職員が目的意識を持ち、研修履歴を活用した授業力・指導力の向上を図る。
- 小教研公開協力へ向けた実践的研究（家庭科）の推進

◇ 授業の工夫・改善

- 【国語】
 - 読解力が苦手な原因を探る。
 - 正確に音読する力を付ける。
 - 問い直しと読み直しをする。
 - 口頭で発問する。
 - 読書習慣付けさせる。
- 【説明文】
 - 文章を論理的に考えさせる。
 - 重要な文章ポイントを分からせる。
 - 著者の文章に対する自分の意見を持たせる。
- 【物語文】
 - 場面を捉える・登場人物の生き方や考え方を探る。
 - テーマを捉えて自分の意見を持つようにする。
 - 場面を捉える。
 - 登場人物の生き方・考え方を探る
 - テーマを捉えて自分の意見を持つようにする。
 - 複数の児童で一冊のノートに順番に文章を書かせる取組
 - 国語辞典の活用
 - 情報を発信するための「話す・聞く能力」の指導
 - ペアやグループでの話し合い活動の重視
- 【算数】
 - 解決の見通しをもたせる。
 - 何のためのグループ学習なのかを明確にする。
 - 本時のまとめにつながる発問をする。
 - 算数の授業の終末を大切にすること。
 - 言語活動を通して、相互練り上げの場を工夫する。
 - 思考の足跡が分かるノートづくりに取り組む。
- 【理科】
 - 「問題解決学習をおこなっているか」
 - 「観察・実験が充実しているか」
 - 「理科学習の系統性が意識されているか」
 - 自然の事物・現象から問題を見出し、主体的に解決させるための教材や導入の工夫をする。
 - 根拠（既習事項や生活経験等）に基づいた予想や仮説を発想し、見通しをもった観察・実験計画を立てさせるための手立てを講じる。
 - 観察・実験の結果を整理・分析した上で、解釈・考察し、説明させるための方策を講じる。
 - 自分の学びを振り返り、自分自身の成長を実感できるための手立てを立てさせる。

◇ 家庭との連携

- 個別の課題の実施及び支援
- 子どもが疑問が持てる環境づくり
 - ・社会事象に関する疑問
 - ・自然現象に関する疑問
 - ・科学的事象に関する疑問
- 子どもの意見・考えを導き出す環境づくり
 - ・子どもの意見や考えの要求

◇ 校内研修の充実

- 授業改善を実施する。
- 授業の振り返りを実施する。
- 定期的・臨時的に評価を行い、加除・修正を行う。
- 学級・学年・学校全体として組織的に実践する。